

2026年4月15日(水)

老球の細道917

青天の霹靂(へきれき)⑧

会津バスケットボール協会 室井 富仁

いざ、勝負。1月28日(水)手術の日が来た。朝6時10分に目覚める。夜中に2回トイレに起きたが、緊張感もなく、ぐっすり、ゆったり眠ることができた。目覚め後は快便、体温36.4度、血圧120/80で絶好調。手術は寝ているうちに終わる。目覚めてからは術後の痛みとの勝負になる。

「人はいずれ死ぬ。生かされているうちは真剣に生きよ」。手術後、多少身体に不自由さが起きても、歩いて、食べて、バスケットボールができれば良しとしよう。わが人生最大の試練に室井爺の生きざまを家族や友人たちに見せなければならない。午前10時自分自身を鼓舞しながら看護師と共に手術室に向かった。途中、頭の中には高倉健さんの映画『唐獅子牡丹』のラストシーンで健さんが悪者をやっつけるために道行くシーンがかぶさる。もちろん唐獅子牡丹の音楽も流れて来た。

手術は約7時間に及んだ。無事成功。麻酔から目覚めたのは翌日29日(木)の朝だった。ICU入り口のそばのベッドに寝かされていた。体中に色々な管が繋がっていて、手で触れたら自分が改造人間になってしまったようで、怖くて身体の状態を見ることができなかった。目が覚めてから主治医や看護師から色々説明があったが、手術終了の安堵感とこれからの不安感が混じって、話の内容はほとんど聞き取れなかった。その代わりに妻がすべて対応してくれた。

ICUには2月9日(月)まで12日間滞在した。看護師がこんなに長く滞在するのは珍しいと話をしていたので、どこか悪い所がまだあるのか不安になった。主治医のH先生に質問すると、徹底して治したいので慎重に治療しているということだった。手術後に心配されたリンパ節の転移は病理検査の結果陰性であることをH先生から伝えられてホッとした。

このICUでの12日間はまさに試練の日々。術後の痛みは鎮痛剤で抑えられていたので、それほど不自由さは感じなかったが、最も辛かったのは咳による睡眠不足と単調な時間だった。咳止めや睡眠薬を処方してもらったが、夜中の2時、3時頃には薬が効かなくなって目が覚め、それから朝6時まで長いこと、長いこと。

一日の単調な時間も耐え難いものであった。食事がなく(点滴)、朝から夜寝るまでベッドの中でテレビを見ているだけ。手術の合併症で声もはっきり出なくなり、看護師さんとのコミュニケーションも不具合が生じてストレスがたまるばかり。そんな中で楽しみだったのは午前中のリハビリによる歩行訓練と日ごとに身体から取れるチューブ管の数であった。特にリハビリのウォーキングはICUの部屋のみならず隣のHCUまで進出して、リハビリの先生たちに迷惑をかけてしまった。

今までも辛いこと、失敗、試練をたくさん経験したが、その後悪いままで終わることはなかった。人生苦楽、四季折々、陽はまた昇る。今回も後に必ずプラスがあるだろう。〈続〉